

評価基準に基づく評価項目別の総合値

(令和7年度スマート捕獲等技術の実証・普及業務 公募型プロポーザル)

評 価 項 目		配点	参加者別評価値 株 式 会 社 B O - G A
1 目指す姿			
○本委託業務の目的である、ICT等を活用した被害対策技術（以下「スマート捕獲等技術」という。）の確立及び普及の達成に向けて、目標数値等が明確に設定されており、その考え方は妥当か。	8	32	
2 スマート捕獲等技術の実証内容の革新性			
○実証する技術の内容は具体的な解決策となっているか。 ※ 評価は仕様書の2（1）から（3）に掲げる①～⑦の取組ごとに行う。			
①ドローンの夜間飛行によるシカやイノシシの林間での生息状況や集落への出没状況の把握	4	14	
②ドローンによる集落点検（放任果樹、潜み場、柵の破損の有無等）の省力化	4	14	
③捕獲確認の効率化と不正防止を目的とした捕獲確認アプリの活用検討と、捕獲計画の作成に資するためのGISを使った情報（生息・目撃・被害・捕獲位置・集落診断調査結果等）の整理	4	15	
④遠隔操作による囲いかなでの効率的な捕獲システムの開発	4	15	
⑤地域でサルの追い払い活動に従事する関係者に、ドローンを利用してGPS装着サルの位置情報を提供するシステムの開発	4	13	
⑥タブレット等の携帯用端末を利用した、現地での効率的な活動環境を提供できるシステムの開発	4	13	
⑦IoT機器を利用した、遠隔地からの専門スタッフによる現場へのリアルタイムで適切な助言・指導が可能なシステムの開発	4	14	
3 スマート捕獲等技術の実証内容の確実性			
①実施体制 業務の確実な実施が期待できる体制となっているか。	8	24	
②提案者の実績・強み 提案者のこれまでの類似業務の適正な実績又は優位性が認められ、技術確立及び実装が期待できるか。	4	16	
③機動性 モデル地域の近隣地域（車で1時間程度）に常駐する事務所がある又は、サテライトオフィスなどを設置する意思も含め、天候などの変化や、不測の事態への対策が具体的に記述されているか。	4	12	
④実証する技術の効果分析方法 実証する技術の効果分析に必要なデータとその収集方法は、具体的に盛り込まれているか。	8	24	
⑤実施スケジュール 各業務の開始から終了に至るまでの年間スケジュール概要が明確に記載されており、適切な業務実施が期待できるか。 また、3年以内で実証から技術確立・実装が見込まれる計画性があるか。	8	28	
4 スマート捕獲等技術の実証内容の普及性			
①コスト 成果目標に対しコストは低く抑えられ、利用者にとって使いやすいシステムになっているか。	8	24	
②仕様の透明性 市町等が同様の内容で発注するために必要な仕様が整理されているか。	4	12	
③普及方法 実証された技術を普及する方法は計画的で実効性が認められるものか。	8	30	
5 本業務の目的に応じたその他の提案			
①各事業の成果を押し上げるために効果的な独自提案がされているか。	4	9	
6 経費			
①経費の内訳が明確であり、妥当性があるか。	4	14	
②コストの有効性について、見積価格を基に、次の算定式で判断する。 配点（8）×（提案者中の最低見積金額）／（当提案者見積金額） ※小数点以下を切り捨て	4	20	
評価点合計（100点満点）×5 委員		500	343